

科目名	言語療法特論Ⅲ			授業の種類	講義	講師名	
授業回数	20 回	時間数	40 時間	1 単位	必修・選択	必修	配当学年 時期
							3年 前期
【授業の目的・ねらい】 音声障害、運動障害性構音障害、摂食嚥下障害の概要、検査法、および治療・訓練の理念とその方法を学ぶ。							
【実務者経験】							
【授業全体の内容の概要】 理論に基づいた検査や治療法について学ぶ。							
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 国家対策につながるような実践的知識の集積							
回数	講義内容						準備物(教材)
1	弦楽器と発声						
2	管楽器と発声(フォルマント、母音)						
3	歌唱と歌声(腹式呼吸、共鳴、声区、音質のコントロール)						
4	音声障害の検査法(喉頭ファイバースコープ、喉頭鏡)						
5	音声障害の検査法(GRBAS、音響分析)						
6	機能性音声障害総論(定義、分類)						
7	機能性音声障害総論(喉頭所見)						
8	音声治療法						
9	構音の評価(1)タイプ別の呼吸・発声・構音特徴						
10	構音の評価(2)構音検査、発声発語器官検査						
11	構音の評価(3)プロソディー検査、随意運動検査						
12	構音の評価(4)機能検査、反射検査、その他の検査						
13	リハビリテーションと医学的治療						
14	訓練:呼吸、発声、構音各側面に対するアプローチ						
15	評価・問題点の抽出・訓練プログラム立案						
16	コミュニケーション補償、AAC、装具・補助機器など						
17	摂食嚥下に関する解剖						
18	摂食嚥下に関する検査						
19	摂食嚥下障害に対する間接訓練						
20	摂食嚥下障害に対する直接訓練						
	定期筆記試験						
【使用教科書・教材・参考書】							
【準備学習・時間外学習】							
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は定期試験のみ実施とし、 60点以上の場合に科目を認定する。							